

Laws of the Game

FC北前野



サッカールール親子勉強会資料

更新: 2020.12

FC北前野ホームページアドレス: <http://www2.tbb.t-com.ne.jp/fckitamaeno/>
FC北前野メールアドレス: fc_kitamaeno@yahoo.co.jp

目次

1. フィールドの大きさや名称	1
2. 用具と身だしなみ	1
3. コイントス	1
4. キックオフ	2
5. アウトオブプレー	2
6. スローイン	3
7. ゴールキック	3
8. コーナーキック	4
9. 得点	5
10. ペナルティーキック	5
11. 反則とフリーキック	7
12. オフサイド	8

J F A の理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

J F A のビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、
国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

J F A のバリュー

エンジョイ スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト 選手にとっての最善を考えること
フェア オープンかつ誠実な姿勢で構成を貫く
チャレンジ 成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト 関わりのあるすべてを大切に思うこと

<父兄へのお願い>

本文の記述内容や表現は小学生(特に中、低学年)には難しい内容になっています。是非一読しお子様へ内容を伝えてください。

また、記述内容に不明な点がございましたら何時でもコーチにおたずね下さい。
この冊子が皆様のサッカー知識の向上およびお子様とのコミュニケーションツールとしてお役に立てれば幸いです。

サッカールール親子勉強会



1. フィールドの大きさと名称

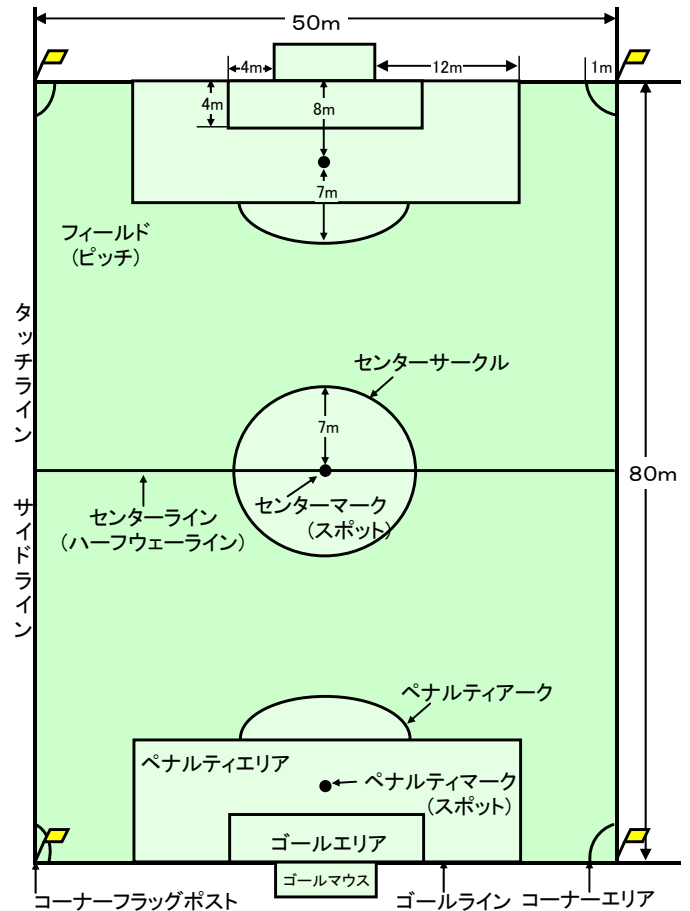
フィールドの大きさと各名称を右の図に示します。
フィールドの大きさは少年サッカー用のサイズですが、あくまでも目安であり、このサイズ通りでなくても公式戦は出来ます。

<ポイント>

コーチは練習や試合でこの名称で指示を出します。
しっかりおぼえましょう。

2. 用具とみだしなみ

- ①必ずすね当てを着用する。(競技規則)
- ②靴のヒモはきちんと縛ること。ただヒモがほどけなければ良いのではなく、きちんと締めて下さい。靴のなかで足が遊んでいては良いプレーは出来ませんし、ケガの元になります。
- ③爪は短く切っておくこと。
自分や他のプレイヤーを傷つける原因となります。
- ④練習服や試合服は必ずパンツの中に入れること。



<ご父兄へのお願い>

ファスナーやホックが付いているアンダーシャツには試合中に着用することは出来ません。
なお、冬の大会などで、ユニフォームの下に着用するアンダーシャツはチームで準備します。

3. コイントス

コイントスは試合開始前(延長戦を含む)とPK戦となった場合PK戦の前に実施します。

①試合開始前のコイントス

コイントスに勝ったチームが、前半に攻めるゴールか、またはキックオフを行うかを決めます。

②PK戦前のコイントス

コイントスを2回行います。

- ・1回目: 使用するゴールは、コインの出た面側のゴールを使用します。
「コインの出た面」とは、コイントスを行う前に主審が表が出たら「右のゴール」、裏が出たら「左のゴール」と予め決めた面のことです。
- ・2回目: コイントスに勝ったチームが、先に蹴るか後に蹴るかを決めます。

<ポイント>

コイントスは主審と両チームのキャプテンで実施します。
この時他の選手はコインをのぞき込まずにしっかり前を向いていましょう。

<ポイント>

左右のゴールコンディションに違いがある場合やその他特別な事情が有る場合を除いてPK戦で使用するゴールはコイントスで決めます。

サッカールール親子勉強会

4. キックオフ

キックオフはプレーを開始または再開する方法のひとつであり、以下の時に行います。

- ・試合開始および試合の後半開始時
- ・得点のあと
- ・延長戦の開始および延長戦の後半開始時

<試合時間>
 1年生～4年生：15分ハーフ
 5年生～6年生：20分ハーフ

①キックオフの進め方

- ・すべての選手は自陣のフィールドにいる。
- ・相手側チームの選手はインプレーになるまでセンターサークル内に入ってはいけない。
- ・主審が試合開始の笛を吹いて、ボールが明らかに動いたときインプレーとなる。

なお、キックオフをした選手は他の選手がボールに触れるまでは再びボールには触れません。

②キックオフ時のいろいろ

事象	処置等
他の選手がボールに触れる前にキックオフをした選手が再びボールに触れた。	これはファールとなり相手の間接フリーキックから試合が再開されます。
キックオフ時にボールを自陣側に蹴った。	正規のキックオフなので、そのまま続ける。
キックオフを行うチームの選手がボールがインプレーとなる前にハーフウェーラインを越えて相手側フィールドに入った。	キックオフの場合インプレーとなるまで相手側フィールドに入ってはいけないため、キックオフを再度行います。

<ポイント>

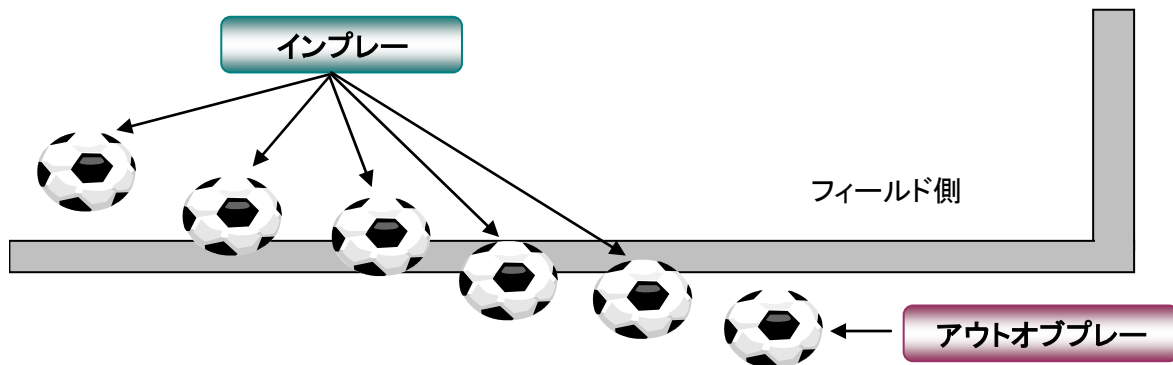
キックオフのボールが直接ゴールした場合も得点は認められます。(但し、各大会で規定があります)
 なお、キックオフのボールが直接自陣のゴールに入った場合は、相手側チームのコーナーキックで再開します。

5. アウトオブプレー

地上、空中を問わずボールがゴールライン、またはタッチラインを超えた時または反則、怪我人などの為に主審が競技を停止した時アウトオブプレーとなります。

特別な事故が起こらない限り「アウトオブプレー」の時間も競技時間に含まれますが、怪我人の搬送などで時間がかかる場合などは競技時間から除外されます。

下の図にインプレーとアウトオブプレーのボールの位置を示します。



<ポイント>

ボールが完全にタッチラインまたはゴールラインを超えないとアウトオブプレーとなりません。
 なお、スローイン、コーナーキックを行っている時間は競技時間に含まれます。

6. スローイン

スローインはプレーを再開する方法のひとつであり、地上、空中を問わずボールが完全にタッチラインを超えた時に行います。

①スローインの進め方

- ・スローインはボールを最後にタッチラインに出した選手の相手側の選手が行います。
- ・ボールがタッチラインを割った地点から好きな方向へ両手でボールを投げ入れます。
- ・両足、片足が完全にフィールドの中に入った状態や、完全に地面からはなした状態で投げてはいけません。
- ・ボールを頭の後ろから頭上を通して投げなければなりません。

②スローイン時のいろいろ

事象	処置等
ボールが直接フィールドに入らなかった。	スローインをやり直します。
ボールを投げ入れた時両足または片足の全部がフィールドの中に入っていた。	ファールスローとなり相手側のスローインとなります。
ボールを投げ入れた時両足または片足が地面からはなれていた。	
ボールを頭の後ろから頭上を通さないで投げ入れた。または、頭上で一旦止めた。	
ボールがまっすぐに投げ入れられなかった。	
ボールがタッチラインを越えた所と違う所からスローインを行った。	

<ポイント>

- ・スローインから直接得点する事は出来ません。
- ・スローインからの再開はオフサイドの対象にはなりません。
- ・スローインを妨げたりする行為はイエローカード(遅延行為)の対象となります。
- ・ゴールキーパーはスローインされたボールを手で扱うことはできません。(バックパス)

7. ゴールキック

ゴールキックはプレーを再開する方法のひとつであり、地上、空中を問わず攻撃側の選手が最後にボールに触れてゴールラインを超えた時に行います。(但し、両ゴールポストの間を除く:得点)

①ゴールキックの進め方

- ・守備側の選手がゴールエリア内の任意の場所からボールを蹴ります。
- ・ボールが蹴られたらインプレーとなります。(ボールがペナルティーエリアから出るのを待たなくてよい)
- ・相手側選手はゴールキックが行われるまでペナルティーエリア内に入れません。
- ・キッカーはボールが他の選手に触れるまで再度ボールに触れることは出来ません。

<ポイント>

- ・自陣ペナルティーエリアからのフリーキック(直接FK・間接FK)もボールが蹴られたらインプレーとなります。
- ・ゴールキックが素早く行われたため相手選手がペナルティーエリアの外に出る時間がなかった場合は、プレーは続行されます。

②ゴールキック時のいろいろ

事象	処置等
ボールが蹴られ、ペナルティーエリアから出る前に味方側選手がボールに触れた。	ボールが蹴られたらインプレーとなるため、プレーを続行する。
ボールが蹴られ、ペナルティーエリアから出る前に相手側選手がシュートしてゴールした。	ボールが蹴られたらインプレーとなるため、得点となる。
ゴールキックしたボールが、キッカーのゴールに直接入った。	相手側のコーナーキックとなる。
キッカーが他の選手に触れる前に再びボールに触れた。 ※キッカーがフィールドの選手の場合	①足で触れた場合：相手側の間接フリーキックとなる。 ②手で触れた場合：相手側のペナルティキックとなる。
キッカーが他の選手に触れる前に再びボールに触れた。 ※キッカーがゴールキーパーの場合	①足で触れた場合：相手側の間接フリーキックとなる。 ②手で触れた場合：相手側の間接フリーキックとなる。

<ポイント>

ゴールキックからの再開はオフサイドの対象にはなりません。

8. コーナーキック

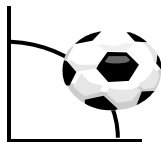
コーナーキックはプレーを再開する方法のひとつです。地上、空中を問わず守備側の選手が最後にボールに触れてゴールラインを超えた時に行います。(但し、両ゴールポストの間を除く:オウンゴール)

①コーナーキックの進め方

- ・守備側の選手がボールが出た地点に近いコーナーエリア内にボールを置いて蹴ります。(注1)
- ・ボールが蹴られたときインプレーとなります。
- ・ボールがインプレーになるまで守備側選手は7m(少年サッカーのとき)以上離れなければなりません。
- ・キッカーはボールが他の選手に触れるまで再度ボールに触れることは出来ません。

②コーナーキック時のいろいろ

事象	処置等
ボールがインプレーになって他の選手に触れる前に、キッカーが再びボールを蹴った。	違反の起きた地点から相手側の間接フリーキックで再開する。



注1: 図のようにボールがラインに掛かっていればOKです。

<ポイント>

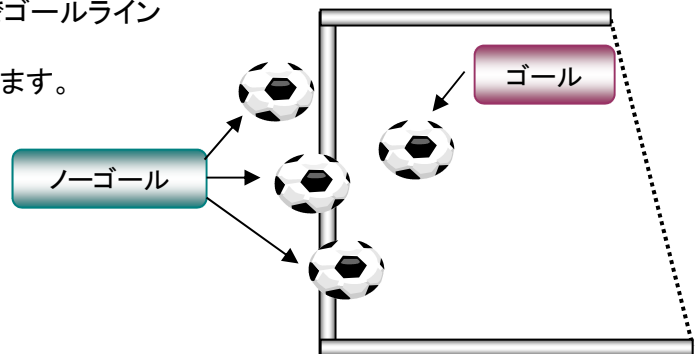
コーナーキックのボールが直接ゴールインした場合も得点は認められます。
コーナーキックからの再開はオフサイドの対象にはなりません。

サッカールール親子勉強会

9. 得点

ボールが両ゴールポストの間と、クロスバーの下でゴールラインを完全に超えた時得点となります。
右の図にゴールとノーゴールのボールの位置を示します。

<ポイント>
ボールが完全にゴールラインを超えないと得点とはなりません。



10. ペナルティーキック(PK)

ペナルティーキックは以下の時に行います。

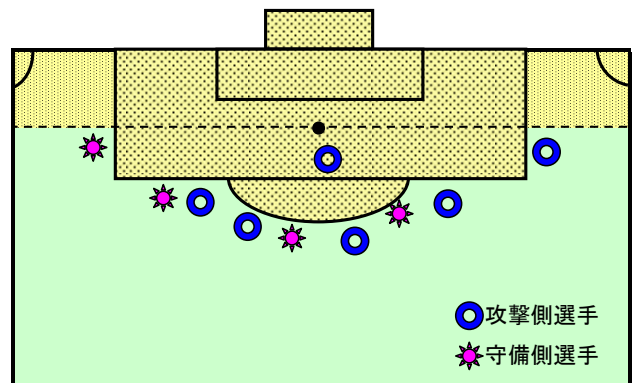
- ・自分のペナルティエリア内で直接フリーキックとなる反則を犯した場合相手チームに与える。
- ・試合終了時(延長戦がある場合は延長戦終了時)引き分けで、大会規定で勝者を決めなければならない時。

ペナルティーキックの進め方は上記2つの場合で変わります。

①自分のペナルティエリア内で直接フリーキックとなる反則を犯した場合

■ペナルティーキックの進め方。

- ・キッカー以外の選手はインプレーとなるまで網掛けのエリアに入れません。
- ・キッカーは主審の合図でボールを前に蹴ります。
- ・キッカーはボールが他の選手に触れるまで再度ボールに触れることは出来ません。
- ・ボールが前に蹴られたときインプレーとなり全ての選手は網掛けのエリアに入れます。
- ・ボールが蹴られるとき、守備側チームのゴールキーパーは少なくとも片足の一部をゴールラインに触れさせているか、ゴールラインの上に位置させていなければなりません。



②ペナルティーキック時のいろいろ

事象	処置等
ペナルティーキックを行うチームに反則(網掛けのエリアに入る等)があった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールした場合 ⇒ペナルティーキックをやり直します。 ・ゴールしなかった場合 ⇒ペナルティーキックはやり直しません。 反則の起きた場所から守備側の間接フリーキックで再開します。
キッカーがボールを蹴った後、他の選手に触れる前に、キッカーが再びボールを蹴った。	違反の起きた地点から守備側の間接フリーキックで再開します。
主審のペナルティーキックを行う合図の前にボールを蹴った。	ペナルティーキックをやり直します。
ゴールキーパー側のチームに反則(網掛けのエリアに入る、キッカーがボールを蹴る前にゴールキーパーが前に動いた等)があった場合。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールした場合 ⇒ゴールが認められます。 ・ゴールしなかった場合 ⇒ペナルティーキックをやり直します。 GKが反則した場合は1回目は、2回目以降はイエローカードで罰せられます。

<ポイント>

- ①ゴールキーパーがはじいたボールをペナルティーキックした選手がゴールした場合は得点は認められます。
- ②ゴールポスト、クロスバーではじかれたボールをペナルティーキックした選手がゴールした場合は得点は認められません。(相手側の間接フリーキック)

サッカールール親子勉強会

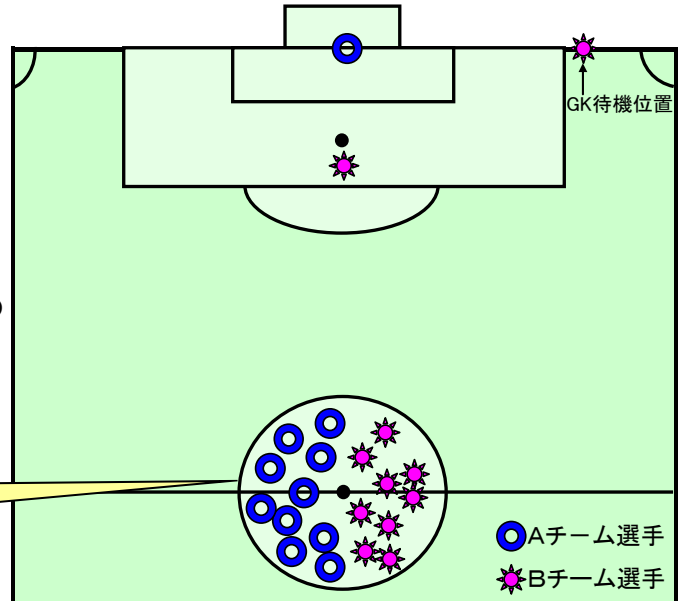


②試合が終了した後のペナルティキック

ペナルティキックの進め方。

- ・コイントスによって使用するゴール、先攻、後攻を決めます。
- ・キッカーは主審の合図でボールを蹴ります。
- ・キックは両チーム5本(大会規定によります)ずつ交互に行います。
ただし、5本蹴る前に勝敗がついた場合は、以後のキックは行いません。
- ・お互いに5本ずつ蹴っても勝敗がつかない場合は勝敗がつくまでペナルティキックを続けます。

キッカー、ゴールキーパー以外の選手はセンターサークル内に居なければいけません。



ペナルティキック時のいろいろ

事象	処置等
キッカーに反則があった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールした場合 ⇒ペナルティキックをやり直します。 ・ゴールしなかった場合 ⇒ペナルティキックはやり直しません。
主審のペナルティキックを行う合図の前にボールを蹴った。	ペナルティキックをやり直します。
ゴールキーパーに反則があった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールした場合ゴールが認められます。 ・ゴールしなかった場合ペナルティキックをやり直します。

<ポイント>

ペナルティキックのボールをゴールキーパーがはじいた時やゴールポスト、クロスバーではじかれフィールド内に戻ってきてもそのボールを蹴ることは出来ません。

サッカールール親子勉強会



11. 反則とフリーキック

主な反則の種類とリスタートの方法は以下の通りです。

No	反則名	反則の意味	RS
1	ハンドリング	ボールを手や腕で扱う。	直接
2	プッシング	相手を腕や手で押す。	直接
3	ホールディング	相手を押さえ込んだりユニフォームをつかむ。	直接
4	キッキング	相手をける、またはけろうとする。	直接
5	トリッピング	相手をつまずかせる。	直接
6	ファウルチャージ	不正なチャージ、乱暴なチャージ。	直接
7	バックチャージ	背後からのチャージ。(ボールへのチャージでも危険であれば反則)	直接
8	ジャンピングアット	相手に飛びかかる。	直接
9	ストライキング	相手を殴る、または殴ろうとする。	直接
10	危険なプレー	相手の前で足を高く上げる等。	間接
11	オブストラクション	故意に相手の進路を妨害する。	間接
12	オフサイド	待ち伏せ攻撃。別途解説します。	間接
13	二度蹴り(通称)	・キックオフ、ゴールキック、コーナーキック、スローイン、フリーキック、ドロップボールをした選手が他のプレイヤーに触れる前に再びボールに触れる。 ・ゴールキーパーがボールを手から放したのち、他の選手に触れる前にそのボールに手で再び触れる。	間接
14	バックパス	味方選手によってGKに故意にパス(スローイング)したボールを手で扱う。	間接
15	6秒ルール	GKが6秒を越えてボールを保持し続ける。	間接
16	プレー妨害	ゴールキーパーがボールを手から離すのを妨げる。	間接

<ポイント>

- ・直接フリーキックとなる反則を守備側の選手が自陣ペナルティーエリア内で犯した場合PKとなります。
- ・主審が片手を真上に上げた時は間接フリーキックの反則があったことを示します。
また、フリーキックからの再開もオフサイドの対象になります。
- ・守備のための「壁」が3人以上の競技者で作られたならば、すべての攻撃側競技者は「壁」から1m以上離れなければならない。1m以内に侵入したら、相手の間接フリーキックとなります。

12. オフサイド

オフサイドとは、攻撃側選手がボールを相手エリア(前方)方向に蹴った瞬間に受け側選手がオフサイドポジションにいて、そのボールに積極的にプレーした場合に適用される反則です。

ただし、オフサイドポジションにいては反則ではありません。あくまでもその「ボールに積極的にプレーした」、「相手選手に干渉(プレーの邪魔をする等)した」および「その場所にいたことで利益を得た」と主審が判断した場合に適用されます。

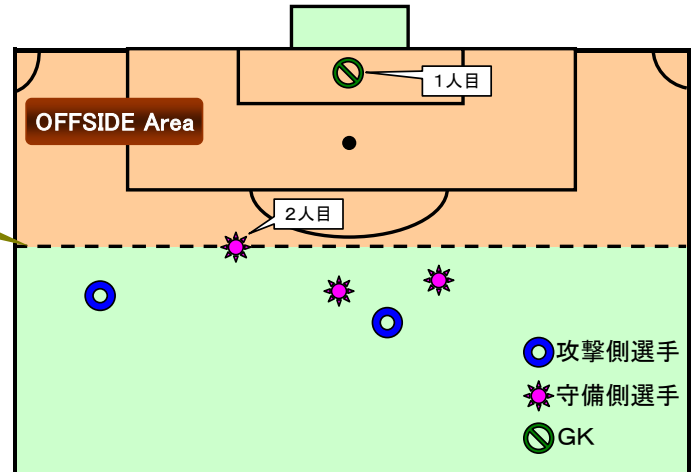
<ポイント>

- ゴールキック、スローインおよびコーナーキックからのボールはオフサイドにはなりません。
- また、パスが出たとき自陣にいてオフサイドポジションに移動しパスを受けてもオフサイドにはなりません。

＜オフサイドポジション＞

オフサイドポジションとはルールブックによると「競技者がボールおよび後方から二人目の相手選手より相手ゴールラインに近い」とあります。通常は、「**後方から二人目の相手選手**」の一人はゴールキーパーです。だから「相手側最終ディフェンスラインの選手より相手のゴールに近いところにいる」と考えてよいと思います。

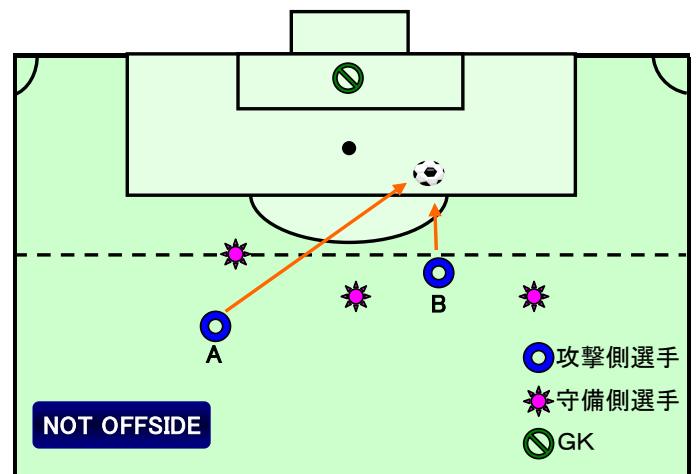
相手側最終ディフェンスライン
ここがオフサイドラインです。



オフサイドのケーススタディー

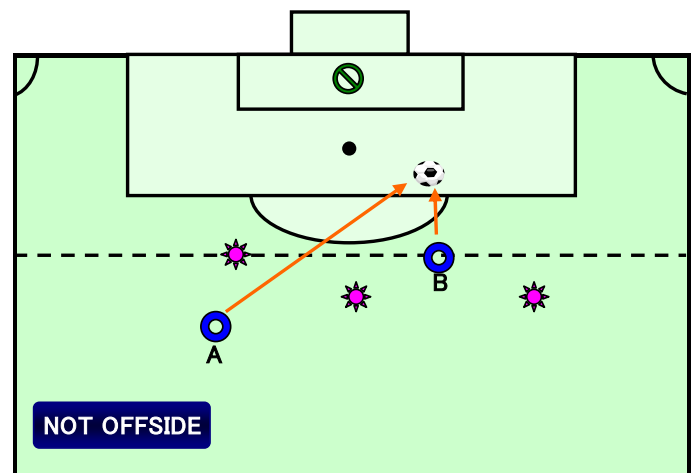
＜ケース1＞

Aがボールをパスした瞬間Bはオフサイドポジションにいないのでオフサイドではありません。



＜ケース2＞

Aがボールをパスした瞬間Bは最終ディフェンスラインの選手と並んでいました。この場合はオフサイドではありませんが、Bの頭、胴体または足がゴール方向に出ていた場合はオフサイドとなります。ただし、手は出てもオフサイドではありません。

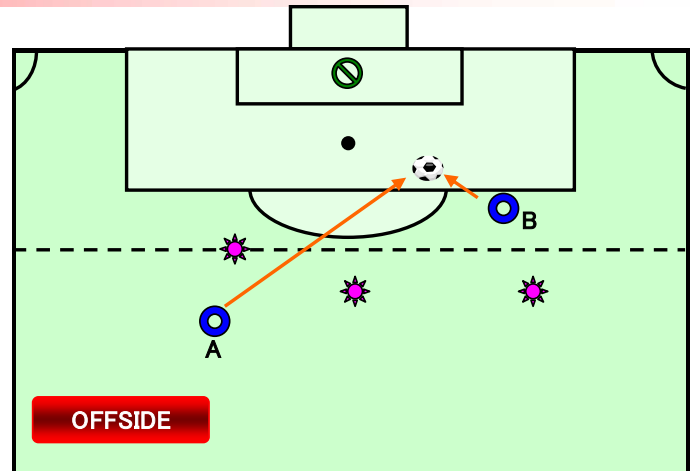


サッカールール親子勉強会



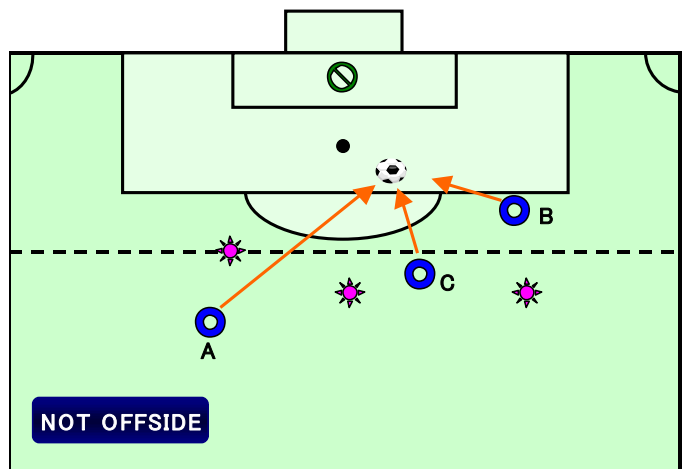
<ケース3-1>

Aがボールをパスした瞬間Bはオフサイドポジションにいてボールに向かってプレーし、かつ、廻りのオンサイドポジションにBの味方選手がいないためオフサイドとなります。



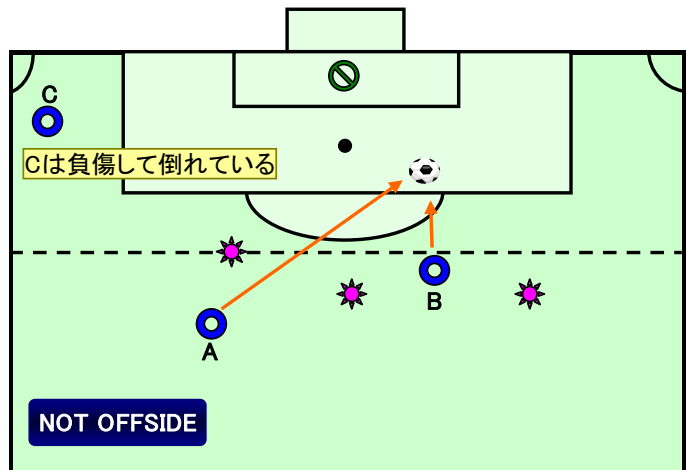
<ケース3-2>

Aがボールをパスした瞬間Bはオフサイドポジションにいてボールに向かってプレーしたがボールに触れる前にオンサイドポジションにいたCがボールに触れた。Bはボールに触れていないためオフサイドにはなりません。



<ケース4>

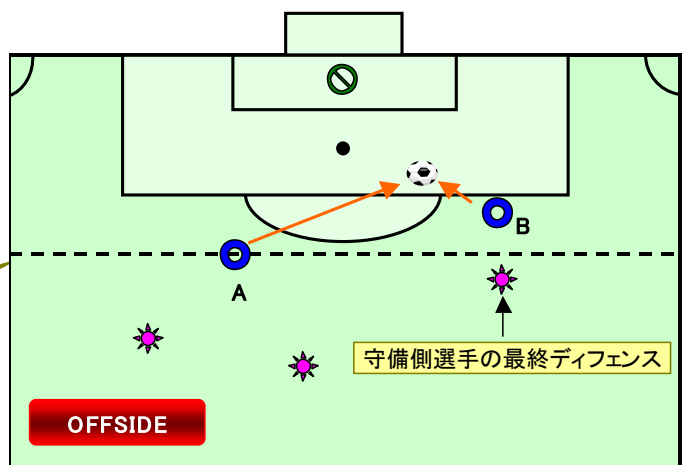
Aがボールをパスした瞬間Bはオフサイドポジションにいない。Cはオフサイドポジションにいるが、負傷で倒れていて積極的にプレーに関与していないためオフサイドではありません。



<ケース5-1>

Aがボールをパスした瞬間Bはオフサイドポジションにいてボールに向かってプレーし、かつ、廻りのオンサイドポジションにBの味方選手がいないためオフサイドとなります。

この場合、ボールの位置がオフサイドラインとなります。



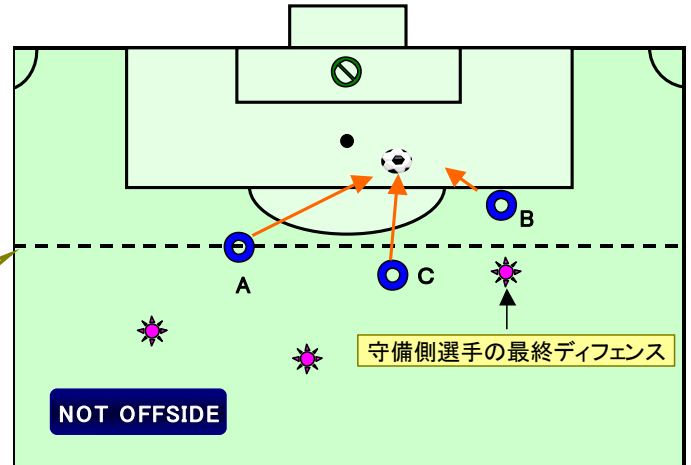
サッカールール親子勉強会



<ケース5-2>

Aがボールをパスした瞬間Bはオフサイドポジションにいてボールに向かってプレーしたがボールに触れる前にオンサイドポジションにいたCがボールに触れた。
Bはボールに触れていないためオフサイドにはなりません。

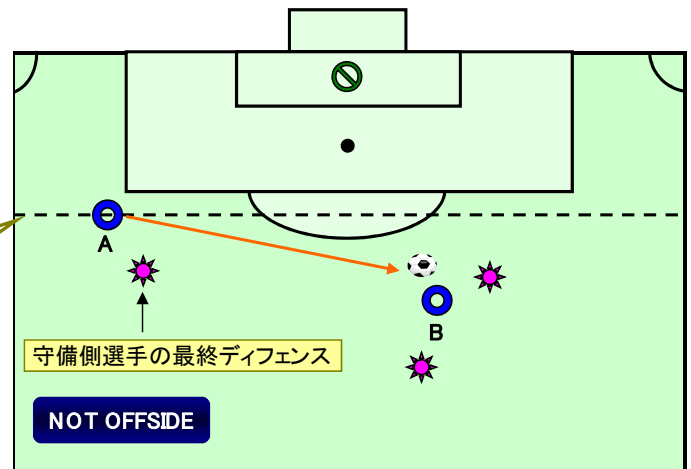
この場合、ボールの位置がオフサイドラインとなります。



<ケース6>

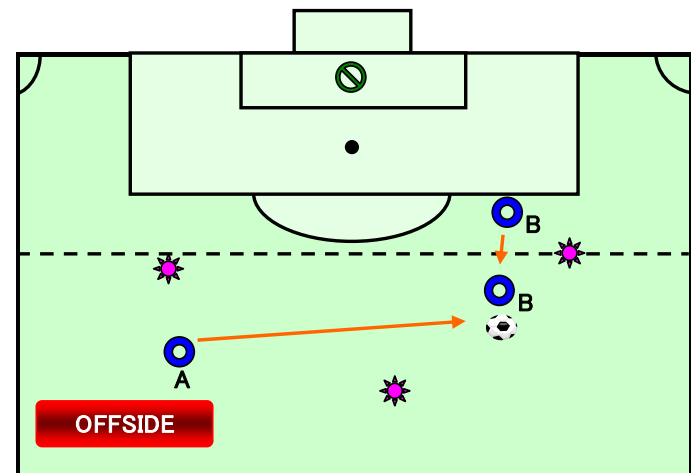
Aがボールをパスした瞬間Bは最終ディフェンスの選手より相手のゴールに近いところにいるがオフサイドラインはボールがあるAのラインとなるためオフサイドではありません。

この場合、ボールの位置がオフサイドラインとなります。



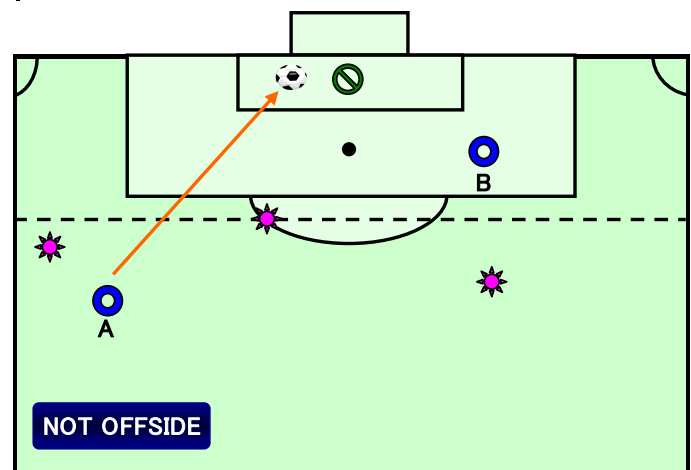
<ケース7>

Aがボールをパスした瞬間Bはオフサイドポジションにいた。その後オフサイドポジションではない位置に移動してパスを受けた。
この場合はオフサイドです。



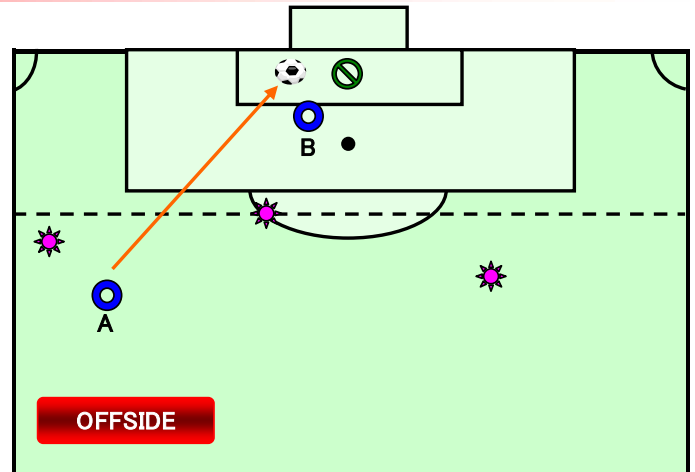
<ケース8>

Aがシュートしてゴールした。
Bはオフサイドポジションにいたがプレーに干渉していないのでオフサイドではありません。
ゴールは認められます。



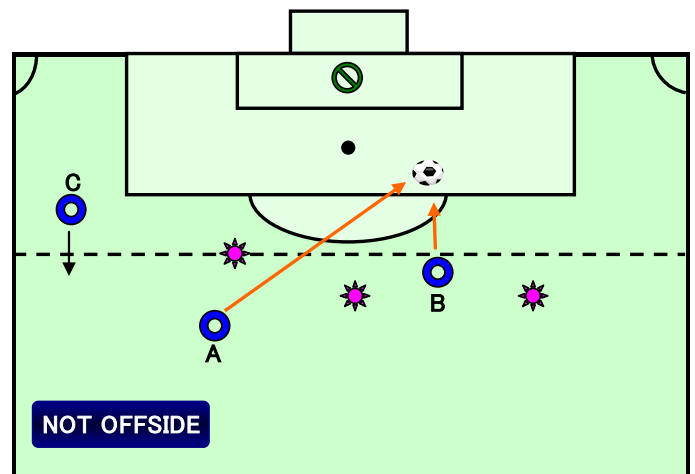
<ケース9>

Aがシュートしてゴールした。
Bはゴールキーパーのすぐ前に立ち視線を遮った。
Bはボールには触れなかったが、オフサイドポジションにいて、相手選手に干渉しているのでオフサイドです。ゴールは認められません。



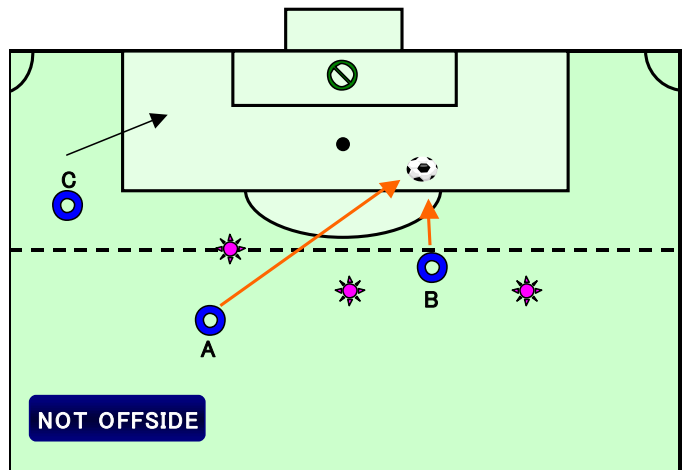
<ケース10>

AがオフサイドポジションにいないBにパスした。
この時オフサイドポジションにいるCが歩いてハーフウェーライン方向に戻っていた。
この場合、Cは積極的にプレーに関わっていないためオフサイドではありません。



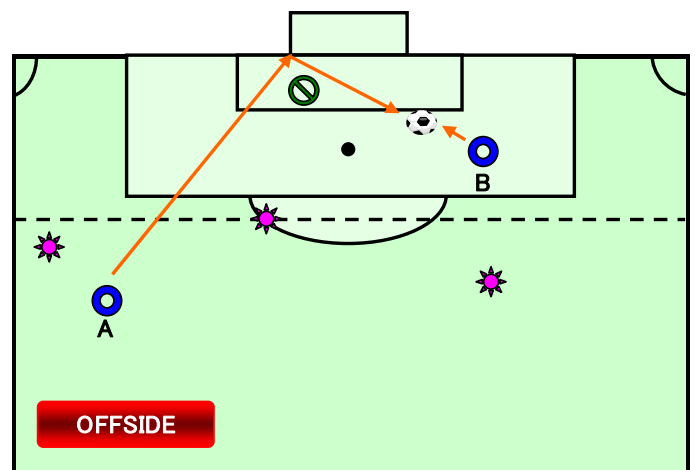
<ケース11>

AがオフサイドポジションにいないBにパスした。
この時オフサイドポジションにいるCがゴール方向に走った。
この場合、Cは直接プレーに関わっていないためオフサイドではありません。



<ケース12>

Aがシュートしてゴールポスト又はクロスバーに当たってはね返った。そこにオフサイドポジションにいたBがはね返ってきたボールに向かって走った。
この場合、Bはオフサイドポジションにいたことで利益を得たためオフサイドです。

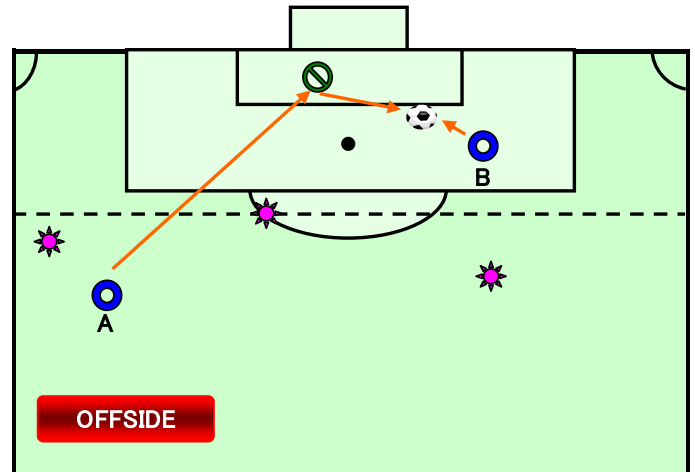


サッカールール親子勉強会



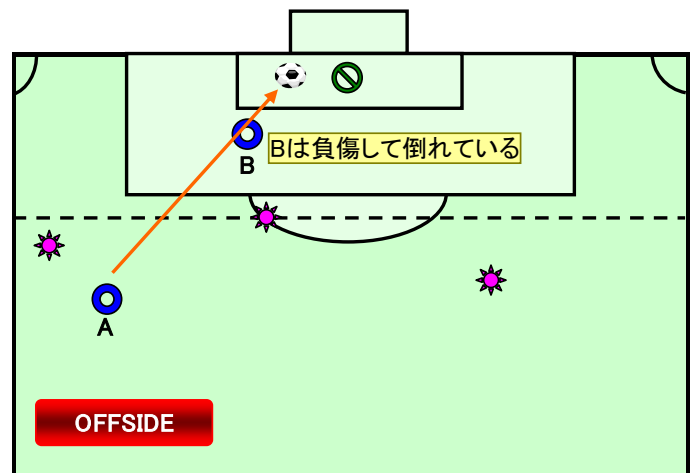
<ケース13>

Aがシュートしてゴールキーパーがそのボールをパンチングしてはね返った。そこにオフサイドポジションにいたBがそのボールをシュートしてゴールした。この場合、Bはオフサイドポジションにいたことで利益を得たためオフサイドであり、ゴールは認められません。



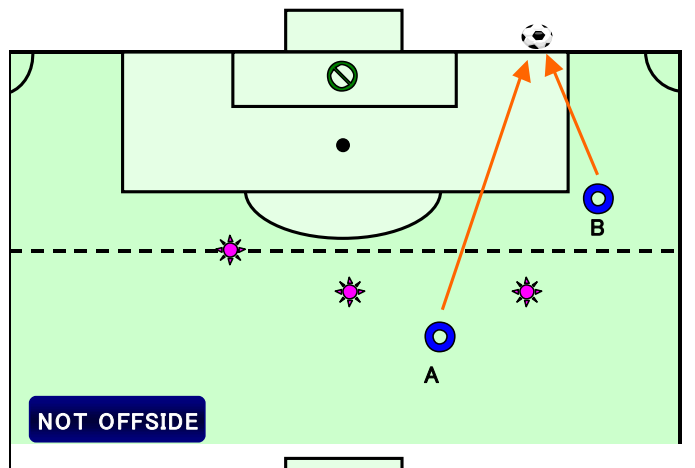
<ケース14>

Aがシュートしてゴールした。Bはペナルティアリア内にかつシュートコース上で負傷して倒れている。この場合、主審がゴールキーパーの守備にBが干渉していると判断したときはオフサイドとなりゴールは認められません。”たまたまそうなった”のであっても、Bがオフサイドポジションにいた事実と相手選手のプレーに干渉したかが問題となります。



<ケース15>

Aがスルーパスを出した時、オフサイドポジションにいたBがボールを追ったがボールに触れることなくゴールラインを割った。この場合はBがボールに触れていないためゴールキックでの再開となります。



<ケース16>

Aがオフサイドポジションに居るBにパスを出したが相手選手にボールが当たり、跳ね返ったボールをBがプレーした。この場合、Bはオフサイドポジションにいたことで利益を得たためオフサイドとなります。ただし、相手選手がそのボールをカットしようと積極的にプレーしてボールに当たり、跳ね返ってきたボールをBがプレーした場合はオフサイドではありません。

